

# Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度RI会長

K.R.ラビンドラン



第2780地区  
大磯ロータリークラブ



1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル

TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 河本 親秀

会長エレクト 百瀬 恵美子

幹事 大藤 勉

第2372回 例会

平成28年5月19日 No.40

■司会：田中 敏治

■点鐘：河本 親秀

■合唱：我等の生業

◇プログラム・5月22日：大磯美化キャンペーン（6月2日振り替え）・5月26日：通常例会

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2372回	15(12)	8	66.67%	—	—
2370回	15(12)	7	58.33%	—	—

◇欠席者(4名)宮澤、石山、太田、原さん

◇メイクアップ(0名)

◇会長報告

河本親秀会長

る

1. 規程審議会＝国際ロータリーでは3年に1回4月シカゴで開催、各地区から選出された代表1名が参加して、国際ロータリー定款・細則、クラブ定款・細則の変更、決議：ロータリーとしてかくあるべし、或いは奉仕の実践の提案を審議します。今年の審議会で大変重要な変更が議決されました。



その他幾つかの大幅な変更が議決されています。2780地区としては6月15日に現・次会長・幹事を集めて説明会を開催します。

7月に入るとRIから正式に規程審議会の報告書が届き、「異議申立期間」が提示されます。その後地区として統一見解を出していくとの事です。

これらの変更は何れも何れもRI理事会の提案によるものであり、会員増強、若い会員の入会を目指す為のものです。来年度からこれに基づいた大きな変更が始まると思います。皆さん心にとめておいて下さい。

(1) 例会は毎月2回以上行う：今は毎週1回必ず開催することになっていますが、クラブ定款で月2回以上の例会日を設定出来る。

(2) クラブ定款に定める事で、会員身分の従来の規程・要件を殆ど無くす事が出来る。

(3) 入会金を廃止する。

(4) Eクラブと従来のクラブの差をなくす。

(5) 人頭分担金を2016-17年度から毎年4ドル増額す

2. 次年度ガバナー公式訪問日程

麻生ガバナ補佐の事前訪問：10月27日

佐野ガバナー公式訪問：11月10日

3. ブータン王国オリンピック委員会の歓迎会が先週大磯プリンスホテルで行われ、河本、百瀬、新宅、井上(大磯町観光協会会長として)の4名が参加しました。330人の参加者で賑わっていました。

主なVIPはブータン国王の次男オリンピック委員

長ジゲル・ウゲン・ワンチュク殿下、竹田恒和日本オリンピック委員会会長はじめ内閣官房、外務省高官、神奈川県スポーツ局長、小田原市長、伊勢原市長、箱根町長、大磯町長、町田市幹部等々

ワンチュク殿下の挨拶に始まり、来賓竹田オリンピック委員会会長はじめ、5~6人の祝辞があり、宮澤さんの元気なスピーチもありました。当日の写真は今日配布の会報に載せていますのでご覧ください。

4. ソウル国際大会が5月28日から始まります。大磯クラブからは5人で参ります。参加者数4万3千人とされています。開会式は29日に2回行われますが、外国人Rtn. は午前の部に、韓国人Rtn. は午後の部に参加と決まりました。例会後、国際大会に参加する5人で打合せ会を行います。

#### 5. 先週の理事会報告

(1) 月22日に行われる大磯町美化キャンペーンの振替例会を6月2日に致します。

(2) 計画書には6月16日に納会としておりましたが、当日は第8グループの新旧会長・幹事会の引き継ぎ会を行う事になったので、6月23日18時から、迎賓館で行う事になりました、

(3) 今年の財団寄付目標：

年次寄付＝ \$200/人

ポリオプラス寄付＝ \$40/人

(4) 米山記念奨学会寄付目標：

普通寄付： 5,000円/人

特別寄付： 15,000円/人

上記を5月中旬に寄付する事に決めました。

皆様にお願ひ：

財団ボックス残高が底をつきましたので今期中に会員お一人1万円の財団寄付をお願い致します。

#### ◇幹事報告

大藤勉幹事

回 覧：

1. 6月15日規程審議会説明会開催の通知

2. 次年度会員維持増強セミナー開催の案内

日時：6月7日(火)

16:00~17:30

場所：アイクロス湘南

講演：小沢一彦氏＝米山記念奨学会理事長・元RI理事

3. ハイライトよねやま194号

4. 例会変更：寒川RC

5. 湘南フラガーデン実行委員会から後援の礼状



#### ◇委員会報告：

☆スマイルボックス

百瀬恵美子さん

・河本親秀さん：守屋さん卓話楽しみです。

・田中敏治さん：皆様、こんにちは。守屋さん卓話、宜しくお願い致します。来週の日曜日、美化キャンペーンのご参加、お願い致します。

・百瀬恵美子さん：。守屋さん卓話たのしみです。

#### ☆田中敏治社会奉仕委員長：

5月22日(日)7:00~8:30

、大磯町美化キャンペーンを行います。

集合場所は元滄浪閣前。

駐車場利用の場合は領収書入手下さい。

参加予定の方：河本、百瀬、新宅、大藤、田中。

地元参加者：守屋、野田、井上



#### ◇卓話

#### ◆◆◆諏訪大社御柱祭◆◆◆

守屋 紀忠さん



3月にたまたま用事が出来まして諏訪に行って来ました。そこで4月に行われる行事の資料を貰いましたので配ります。大変詳しく書いてあります。私の印象を喋らせて頂きます。

全国に1万社以上の諏訪神社がありますが、その総本山が諏訪にある諏訪大社です。非常に規模が大きく奇祭と言えらると思います。正確には「式年造営御柱大祭」と言います。寅の年、申の年に四隅に建ててある柱を取り替える為に準備して行う儀式です。御柱はもみの木で長さが17m以上、直径1m、重さが10トン以上。上下両社があつて東京に近い方が上社で、関西に近い方が下社。上社は前宮、本宮に分かれ、それぞれに4本ずつ御柱を建てる。下社も春宮と秋宮に分かれており、同じく4本の御柱を建て替えます。合計16本を6年に1回これだけの大きな木を切り出す中で最近はその候補になる木が少なくなつ

たのか国有林にお願いして木を切っているというような現状らしいです。地区的に分けると上社は山梨県を通り越した茅野町、富士見町、原村の3町村が上社に入り、下社には岡谷市、上諏訪市、下諏訪町が入ります。両方の地区に選ばれた大総代会（30人くらい）があり、下社はその総代会が実行委員会になり、上社は祭の4年前に実行委員会を作り、御柱を探す。下社では八ヶ岳近辺と国有林、上社は国有林で探すそうです。

一番肝心なのは下社の場合は3地区の各実行委員会が1本の木を山出しから里曳き、木落しまで一貫してやるのではなく、ある程度曳くと、異なる地域の実行委員が変わって曳くことにしており、問題はないそうですが、上社の場合は抽選でどの柱を何処が曳くかを決めるのが大変。一番大きな木を引き当てなければと言うので神社に行ってお祈りするなど大変だそうです。籤を引くについて決め事がある。2月25日に行うのだが、参加者の席順を決める籤、順番を決める籤と2回やってやっと抽選会。本抽選で一番太い柱を引き当てれば本一を引いたというので拍手喝采、一番細い木の籤を引いた役員さんは色々言われて大変らしい(笑)。上社と下社の大きな違いはここにあります。下社の場合は秋一と言って秋宮が一番太いのを引くのは順番が決まっています、岡谷地区、上諏訪地区、下諏訪地区それぞれの氏子が交代で引く事になっている。

もう一つの大きな違いは上社の場合ウサギの耳のようなメゾデコ＝配付資料の上4の写真の上部の角のようなもの、本体の木から角を出したような形＝そこに乗って坂落としの時に左右に揺さぶって男気を見せる。以前にはそこから落ちて命を落とした例もありました。今年も一人落ちて亡くなったそうです。

### 諏訪大社のホームページより

#### 男気を見せる7年一度の晴舞台＝下社の木落

木遣りとともに、御柱が頭を突き出し、観衆の緊張が最高潮に達した瞬間。

御柱を引き止めていた綱が、振り降ろされた斧の鈍い音とともに切られます。下社の御柱は、大木そのもの。土煙をあげ轟音を響かせながら、猛然と坂を突き進んでいきます。左右に横転する危険がある中、男たちは振り落とされないよう必死の形相で御柱に乗り続けます。「男見るなら7年一度 諏訪の木落し 坂落し」「どうせ乗るなら木落しお乗り 諏訪の男の度胸だめし」の唄があるほどです。

転がりながら坂を落ちた御柱は、ふたたび穏やかな表情に戻り、さらに1km程の道のりを下社注連掛の台上まで曳かれて行きます。そして一ヶ月後、5月の里曳きを待ちます

~~~~~

下社にはメゾデコはない=配付資料下3=

坂落としの角度は下社35度、上社27度。TVで見るのは坂落としの所ですが、それ以外に上社の場合は2年前に木の選定を行い、下社の場合は3年前に行う。下社は1年前に伐採するが、上社は総代会が出来て抽選会で木が決まってから伐採するので殆ど生木で重い。地域の皆さんは綱の準備を子供からお年寄りまで総出でやる。藁から編んで引き綱にする。藁から作っている地区もあるそうです。

山出しで大変な事は太い、長い、重い木を引き出すのは大変な作業ですが、一般人も参加出来るそうです。（配付資料参照）

私が興味を引かれたのが、上社のご神体が守屋山という山です。地図で見付けようとしたが見つかりませんでした（笑）。

下社の春宮は杉の木、秋宮はイチイの木がご神体になっています。宝前遷座祭（6月）というのが7年に1回あり、蔵を造り変える事もやっているそうです。日程は配付資料のようになっています。

この後会場から色々質問が出て、わいわい楽しい卓話の時間になりました。

ご参考に諏訪大社の歴史をインターネットからコピーしました。



~~~~~

諏訪大社は、長野県の諏訪湖

の周辺に4箇所のお宮をもつ神社です。信濃國一之宮。神位は正一位。全国各地にある諏訪神社の総本社であり、国内にある最も古い神社の一つとされており、諏訪大社の歴史は大変古く古事記の中では出雲を舞台に国譲りに反対して諏訪までやってきて、そこに国を築いたとあり、また日本書紀には持統天皇が勅使を派遣したと書かれています。

諏訪大社の特徴は、本殿と呼ばれる建物がありません。秋宮は一位の木を春宮は杉の木を御神木とし、上社は御山を御神体として拝しております。古代の神社には社殿がなかったとも言われています。つまり、諏訪大社はその古くからの姿を残しております。

諏訪明神は古くは風・水の守護神で五穀豊穰を祈る神。また武勇の神として広く信仰され、現在は生命の根源・生活の源を守る神として御神徳は廣大無辺で、多くの方が参拝に訪れます。

### 諏訪の信仰

全国に分布する御分社は一万有余社を数えお諏訪さま、諏訪大明神と親しまれ、敬まわれつつ巾広い信仰を有し、御神徳の数々は枚挙にいとまがありません。古くからある信仰には風と水を司る竜神の信仰や、風や水に直接関係のある農業の守護神としての信仰が著名です。また水の信仰が海の守り神となり、古くからある港の近くには必ずと言っても良い程にお諏訪さまがお祀りされております。

神功皇后の三韓出兵や坂上田村麿の東夷平定にも神助ありと伝えられ、東関第一の軍さ神、武家の守護神とも尊ばれて来ました。精進潔齋を形だけする者より、肉を食べても真心込めて祈る者を救おうという諏訪大明神御神託や、浄瑠璃や歌舞伎の本朝二十四孝が世上に広まるにつれ、日本の屋根信州諏訪の地への参拝者も日と共に繁く、諏訪大明神の御神徳の厚きことが伺われます。



### 諏訪大社上社本宮＝神体山の信仰

御神体は守屋山という山であり、その麓に建てられていて豊かな社叢に覆われた境内は荘厳な雰囲気、一年を通じて参拝者が絶えることがありません。

本殿はなく、幣拝殿の左右に片拝殿が並ぶ独特の配置で戦国時代、武田勝頼が造営した社殿は天正10年（1582）織田信長の軍勢によって焼き払われましたが、天正12年（1584）諏訪頼忠が上社を再興、現在の社殿は天保9年（1838）に二代目立川和四郎富昌が棟梁を務めて建造されました。

片拝殿の彫刻「笹に鶏」「粟穂に鶉」は立川流の最高傑作といわれています。境内のほぼ真ん中にある東西の宝殿は御柱の年の寅年と申年に交互に建て替えられ、新しい宝殿で宝殿遷座祭が行われます。

### 諏訪大社上社前宮＝諏訪信仰発祥の地

本宮の東約2kmの所にある前宮は、御祭神である建御名方神（たけみなかたのかみ）が国譲りで諏訪に退いたとき、最初に居を定めた地ともいわれ、古くは前宮があるこの地で上社すべての祭祀が執り行われていた、いわば諏訪信仰発祥の地です。

上古には大祝（おおほうり）の居館や付属するたくさん建物が軒を連ねていましたが、近世初頭頃までに大祝が宮田渡に移ると祭典に必要な建物のみになりました。しかし前宮は古くから上社の祭祀が行われた場所であり、最も重要とされる御頭祭（おんとうさい）は今でも前宮の十間廊で行われています。

### 諏訪大社下社春宮

JR下諏訪駅から北西へ約1キロに位置し、その昔、大祝金刺一族をはじめ多くの武士たちが流鏝馬の腕を競ったといわれる真っ直ぐな通りを約800メートル進むと、静寂な森の中に社殿が建ち並んでいます。建物の配置は秋宮と同じで本殿はなく、正面に神楽殿、その奥に幣拝殿と片拝殿、さらに奥に宝殿があり、宝殿奥にそびえる杉の木が御神木となっています。

秋宮が立川流であるのに対して春宮は大隈流の建造で、幣拝殿などの細部に施された彫刻などはまったく異質です。これは江戸時代を代表する2つの流派が同じ図面で競い合って秋宮と春宮を建てたため、春宮の幣拝殿は大隈流の柴宮長左衛門の手によって安永9年（1780）に完成しました。技術の高さがうかがえる幣拝殿正面の彫刻が見事です。

### 諏訪大社下社秋宮

秋宮は、中山道と甲州道中が交わる交通の要衝に位置しています。

下諏に近く境内の手水にも竜の口から温泉（御神湯）が流れ、正面の神楽殿は両脇を青銅製では日本一の大きさといわれる狛犬があります。神楽殿は、上社本宮幣拝殿を手がけた2代目立川和四郎富昌の手によって天保6年（1835）に完成しました。その奥の幣拝殿や片拝殿は春宮と同じ図面で造られながらも、こちらは立川流の初代立川和四郎富棟によって安永10年（1781）に建てられました。彫刻が見事で拝殿内部の「竹に鶴」などは代表作です。春宮と合わせ、建物の多くは国の重要文化財に指定されています。

幣拝殿の奥には御神木のイチイの木がそびえています。また、毎年2月に遷座祭、8月には遷座祭（お舟祭）が行われます。

以上